

# I 青果情報

## 1 2月下旬～3月中旬の経過

気 象	<p>2月下旬は低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込みやすかったため、旬平均気温は全国的にかなり高く、夏日を観測した地点もあった。降水量は北・東日本太平洋側及び西日本で多く、北・東日本日本海側では少なかった。</p> <p>3月に入ると日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過し、旬平均気温は上中旬ともに暖かい空気が流れ込んだ北日本では高くなった。また、旬間日照時間は、上旬は低気圧が通過した北日本で少なく、高気圧に覆われた東・日本太平洋側で多くなり、中旬は東日本太平洋側を除いて平年より多くなった。</p>
-----	--

### 野菜類

入荷量	<p>「キャベツ類」「はくさい」「だいこん」を中心に入荷。</p> <p>野菜にとっての生育環境は良好で「はくさい」「ブロッコリー」「レタス類」等、一時的に入荷減少となった品目があったが、その他主要品目について不足感はなかった。</p> <p>これまで北海道産の減少で少なかった「たまねぎ」は佐賀・長崎県産の増加により3月以降おおむね前年並まで持ち直した。</p> <p>野菜全体では、2月下旬から3月中旬までの入荷量は92,835 t（前年比107.7%）と少なかった前年をかなり上回った。</p>
相 場	<p>一時的に入荷減少となった品目は相場を持ち直す場面もあったが、全体としては不足感なく荷動きも停滞気味であったことから、多くの品目で高値となった前年を下回った。</p> <p>「たまねぎ」は佐賀・長崎県産の増加により、前年9月から上昇傾向が続いた相場が下落に転じた。</p> <p>野菜全体では、2月下旬から3月中旬までの価格は290 円/kg（前年比82.4%）と、高値となった前年を大幅に下回った。</p>

### 果実類

入荷量	<p>「かんきつ類」「いちご類」「りんご類」を中心に入荷。</p> <p>「かんきつ類」は多くの品目で十分な出回りがあり、「紅プリンセス」「にじゅうまる」等注目度の高い品目は引合いが強かった。「いちご類」は量販店で売場が広がった中、端境となり不足感が生じた場面もあった。</p> <p>果実全体では、2月下旬から3月中旬までの入荷量は22,537t（前年比108.3%）と前年をかなり上回った。</p>
相 場	<p>販売金額は大きい順に「いちご類」「かんきつ類」「みかん類」が中心となった。</p> <p>「かんきつ類」は出回り十分な反面、注目品目以外は荷動き緩慢となり、安値傾向となった。「りんご類」は上位等級品の出回りは少なく、高値傾向で目立った荷動きもみられなかったが、前年よりは安値となった。</p> <p>果実全体では、2月下旬から3月中旬までの価格は649 円/kg（前年比88.5%）と前年をかなり下回った。</p>